

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成元年3月10日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	4番 庄司二三男
5番 岩村 勝弘	6番 山崎 雅己
7番 生稲 陞	8番 鈴木 勝美
9番 山口 康雄	10番 鈴木 忠夫
11番 神田 守隆	12番 榎本 春光
13番 山中金治郎	14番 小宮 利夫
15番 横溝 功	16番 石井 昌治
17番 石井 謀	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 福原 勤
21番 辻田 実	22番 黒川 平治
23番 流山源次郎	25番 渡辺 昭夫
26番 近藤 好雄	27番 林 豊
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一	助役 小倉 澄男
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 渡辺 秀夫	民生部長 小幡 清之
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 委員長 杉村 芳枝	教育委員会 委員長 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第3号）

平成元年3月10日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（飯田義男君） 本日の出席議員数26名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（飯田義男君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等は、きのうと同じであります。

これより順次発言を願います。

23番議員流山源次郎君。御登壇願います。

（23番議員流山源次郎君登壇）

◎23番（流山源次郎君） 平成元年3月の定例議会におきまして、市長の施政方針の中から、時間の関係等もございまして、私は6点を選びまして通告質問をいたします。

館山市の10年間というものを振り返ってみますと、十数校に上がりますところの小中学校の近代化の完成、また出野尾におきますところの環境整備、それぞれセンターの完成とか、また観光の目玉でございます、正式には博物館の分館でございますが、館山城の再興というような、非常に我々といたしましても他の市町村に対して、胸を張って大きな声で自慢できるものだと思っておりましたところが、案外市民の反応とかそういうものは、何かせっかくのこれだけの大事業に対しまして、館山市にはいまだに活性化がないじゃないかと。また、それぞれの意味合いにおいては、鴨川市の方は先取りの予算をしておるということで、市の執行並びに我々議会に対しましても、非常に厳しい批判がされておるわけでございますが、私といたしましてもこの点

を加味いたしまして、市の執行部とこういう機会をとらえまして、お互いに腹を割っての話し合いの上において、また特に本年からはリゾートの指定がされるという話もございまして、本当に館山市が活性化に向かってその花を開くかどうか、それは重大な問題でございますので、ただ執行部のあらを拾うとかそういうことでなくして、私といたしましてはお互いに話し合いの過程において、どうしたら館山市の活性化ができるかという機会をとらえて進んでいきたいと思っております。

6点の問題につきまして御質問申し上げます。

まず、大きな第1点は海洋性リゾートタウン2カ所計画について。小さな1点として地元漁業権の同意で施行される場合、入漁権許可漁業関係者の場合はどうなるのか。

2、マリン計画に基づき埋め立ての場合、近くの海水浴等に汚泥化の心配はないか。

3、関連のゴルフ場増加につき農業等による地下水の汚染は大丈夫か。

第2番目といたしまして、国道127号線、東関東自動車道、館山白浜線バイパスの計画設計はどうなっているのか。小さな第1点といたしまして用地買収はどのような現状なのか。

2、山間部開通の計画ありしとか、山林伐採による用水不足や山崩れの心配あり、対策はあるのか。

3点といたしましては、公共下水道は水との関係上、今後の見通しを問うということでございます。

4は、市の言う文化とは何を指して文化と言うのか。

5点目といたしまして、つくり育てる漁業の基本姿勢についてでございますが、その小さな第1点といたしまして、市が言う磯根資源の増大、種苗放流、漁礁設置による漁場生産力、漁業経営の安定とはどのくらいのものを指すのか。

第2点といたしまして、漁業養殖の研究は現在どのようになっているのかをお聞かせ願います。

6番目といたしまして、福祉政策についてでございますが、小さな第1点

として民生保護の基準についてお伺いします。

第2点としては福祉資金について。

3点として市民との窓口対応についてでございます。

昨日来、リゾート問題、また水問題等は議員の皆さんから相当細かく質問等がございましたので、そういったものには私としても同じ意見でございますので、説明を省かせていただきたいと思います。

それで、まず海洋性リゾートタウンの2カ所計画というのは、過日鴨川市におきましてリゾート問題の講演会等がございましたときに、館山市といたしましてこのリゾートの問題でございますが、青写真といえますか、西岬地区とそれから富崎地区でございますが、2カ所のマリン及び陸上施設等の青写真といえますか、それが飾ってありまして、それを拝見したわけでございます。

私久しぶりで漁業問題に絡んだ質問をするわけでございますが、私といたしましては47年にもう漁協の理事をやめまして、現役を上がっておるという関係上、それ以降においての漁協とかいろいろな漁業の規則とか、または法的なものが変わっておるということとはちょっと、残念ながら余り勉強不足でございますのでわかりませんが、当時のことを振り返りまして質問いたしますが、現在その法とか制度とかが変わっておりまして改めて教えていただきたいと思います。

第1番の地元漁業権の同意で施行される場合に、入漁権許可漁業の関係者の場合はどうなるのか。何か聞くとおるところによりますと、今はそういう地区におきましては入漁権の問題とか、余り大きな問題はないというような話を聞いております。

ただ、私どもがここでマリン計画と — 当然これは埋め立てでございますが、それができた場合に、ちょうど戦後におきまして館山市で — 館山市というよりも安房郡下のこの内面操業において大きな争議がございました。その大きな争議の一つといたしましては、内湾の定置網漁業が — 御承知のとおり、定置網というのは魚の回遊、それぞれ潮流によって回遊してまいります魚を、それをうまく網を仕掛けてそこに誘導して魚をとるという漁法でござ

ざいますが、その定置網の、潮に乗ってくるその魚の設備があるところにおきまして、その周りに一本釣りなりあぐりなりがエンジンの音をさせておいた場合には、その魚に相当影響するということで、定置網の周りに保護区域を設定しようという件が出たわけでございまして、それに対しまして昭和25年ごろから30年ぐらいにかけまして、内湾の一本釣り、あぐり対定置ということで解決の線に持ち込まれまして、私も館山海上または鋸南海上の2カ所を参考として、それに海区調整委員の何といたしますか、参考人がそれぞれの意見を述べるという会議に出席したわけでございますが、そのときに海区調整委員としても当時は、じゃ保護区域をつけるという決断ができなかったわけでございまして、そのうちにお互いに海で働く漁業関係者であるということで、なるべくあぐり、定置の周りに船を、余りエンジンをかけないようにしようじゃないかという申し合わせみたいな、お互いに漁業関係者の好意によって、入り会い漁業者と定置業者の話が和解のような形で、お互いに漁業の立場を尊重してやっていこうということで終わった経過がございます。

それがつい頭にあったために、当然市が大きなこれからの館山市の活性に向けてのマリン計画というものができた場合に、地元の漁協におきまして、水産業協同組合法の第50条の決定によって、そこに漁業権の放棄ということで仮に埋め立ての許可ということになった場合に、じゃ入り会いの漁業者はどうなるのかという心配が先に立ってしまって、結局これは反対だとか賛成だとかという問題以前に、そういう海の問題というのは非常に複雑な問題があるということで、この問題につきましてマリンタワーの漁業権放棄というべき問題があれば、地元の漁業者も自分たちの生命線でございます漁業権を放棄する、入漁者はそれだったら、そこに一つの島ができてしまったら、もう泣いても笑ってもそこで魚をとるわけにいかないというようなことがございますが、これに対するとおころの措置はどのようなことが考えられるか、お聞かせを願いたいと思います。

それから、いま一点はマリンタワーの計画でございますが、これは私も県を通じてのこのリゾートの申請にどのくらいの規模で、どのくらいのものが申請されておるかはわかりませんが、青写真を見た限りでは相当のマリンタ

ワ－の埋め立てが行われるということを認識したわけですが、これについて1点心配なのは鋸南町の吉浜海岸でございますが、あれはもと保田町でございます。この保田町は、大六の海水浴場と吉浜の海水浴場が二つの大きな保田の海水浴場として、長い間続いておったわけですが、鋸南町の埋め立てによりまして、吉浜の海水浴場は土砂が海岸に流れついてしまって、埋め立てに対する土砂が流れついてしまって、現在ではもう海水浴場として機能を果たさないということで、もうほとんど泳ぐ人はございません。

皆さん方も国道 127号沿いで保田に参りますと、あその海岸はもとは鱈ヶ浦という、館山湾の鏡ヶ浦と相当するような、有名な水のきれいな海でございましたが、現在はあそこに行ってもきれいな海だという感じはほとんどないわけですが、館山の場合にこのマリン計画のある近くには西岬の海水浴場、また相浜の海水浴場等、きれいな海水浴場ということで2カ所ございますが、それが埋め立てによつての汚泥は心配ないのかどうか、この点をお聞かせ願いたいと思います。

ゴルフ場等の問題は、昨日同僚議員の皆さん方から非常に細かく質問されたので、これ省略させていただきたいと思います。

それから、第2点目の 127号線、東関東自動車道、館山白浜線バイパスの計画はどうなっているか。私どもとしては、正式には議会として市からの説明は聞いておりませんが、何か入ってくる情報は相当大きいものはいろいろニュースが入ってまいります、この点市としては、今どのくらいになっておるのかどうか、その点をお聞かせ願いたいと思っております。

それから、公共下水道、水との関係ですが、これも昨日皆さん方から詳しく質問なり、また市の方からも回答はございましたが、それを私としては同じ意見でございますので、省略させていただきたいと思います。

次に、4点の市の言う文化とは何を指しての文化ということかということでございます。私この問題につきましては、書いた私自体も驚いてしまって、この文化の意義の大きさに、なぜこういう質問をしてしまったのかということでございますが、簡単に市民の立場に立っての、いろいろこれに対する討議

がございますので、その点について質問したいと思っております。

つくり育てる漁業、これ等も質問の中で展開していきたいと思っております。

最後に、福祉政策でございますが、民生保護の基準、それから福祉資金について、その3点の市民との窓口の対応についてをここで書いたところが、福祉ということで福祉関係の方が驚いて飛んできて、私どもの窓口がそんなに悪いのかということで質問されて驚いたわけでございますが、これは市民の福祉ということでここへ載せたわけでございますが、これは決して福祉を指したり市民課を指したり個人的なものを指すわけでなくして、総体的に窓口対応ということで載せたわけでございますので、この点了解していただきたいと思います。

私は、既にもう通告してあって1週間もたっておる関係上、市の方としては100点満点の答弁がもらえるということを確認しておりまして、それに対してしまして何もつべこべと細かく重箱の隅をつつくような質問は避けたいと思っています。しかしながら、先ほどお話ししたとおり、市と私どもの議会とこういう機会がなければなかなか話し合う機会がないということでございますので、この機会をとらえまして質問過程におきまして、いろいろ市の知識を得たいと思うのでございますので、時間いっぱいそういったことの話し合いの相談に乗っていただきたいと思ひまして、以上をもちまして私のこの演壇におけるところの通告の趣旨を終わらせていただきます。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 流山議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点の海洋性リゾートタウンの計画についての関連しての御質問でございますが、その小さな第1点でございますが、海洋性リゾートタウン計画での許可業者につきましては、開発企業者に対して館山市漁業協同組合連合協議会及び関係漁業協同組合と十分協議をして、理解を得るように指導をいたしているところでございます。なお、当計画区域内には入漁権者は有してはおりません。

次に、小さな第2点、マリン計画に基づき埋め立ての場合、近くの海水浴場等に汚泥化の心配はないかという御質問でございますが、開発に際しましては、事前に自然環境に影響があると考えられる潮流や漂砂などの調査を実施いたしまして、関係団体等の意見を十分聞き、施工計画の段階から適切な対策を講ずるよう指導してまいりたいと考えております。また、周辺の海水浴場は海洋性リゾートタウン計画を推進する上からも重要な施設と考えておりますので、さらに魅力を高めるように推進をしてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2点、国道127号線、東関東自動車道、それから館山白浜線の計画設計はどうなっているか、そういう御質問でございますが、まず小さな第1点、用地買収の状況についての御質問でございますが、一般国道127号館山バイパスの用地取得率は館山市96.5%、富浦町99%弱となっております。

次に、東関東自動車道館山線につきましては本年1月末の国土開発幹線自動車道建設審議会で、全体の40キロメートルのうち木更津富津間20キロメートルが予定路線から基本計画路線に昇格をしたところでございまして、まだ事業化はなされておりません。また、一般国道127号の整備事業として建設が進められております鋸南道路4.9キロメートルにつきましては、用地取得率95%で既に工事に着手しており、金谷道路7.9キロメートルにつきましては、地元に対する事業説明会を行っている段階でございます。主要地方道館山白浜線バイパスにつきましては調査、測量の段階でございますので、用地取得はございません。

それから、この通告書にございます小さな第2点、山間部開通の計画、これは御質問がなかったようでございますが、念のために申し上げますと、山間部を通る計画については東関東自動車道館山線及び主要地方道館山白浜線バイパスにつきましては、まだ路線計画もできていない段階でございますので具体的なお答えはいたしかねますが、もしそのような場合には十分配慮し、計画を施行すべきものだと考えております。

次に、大きな第4点、市の言う文化とは何を指して文化というのかという

御質問でございますが、私は文化とは狭い意味での芸術文化だけではなくて、これらを含んだ広い意味での生活文化としてとらえております。すなわち都市としてのにぎわいや楽しさのある空間の創出、快適で潤いのある生活環境の整備に加え、市民の健康福祉やコミュニティづくりなどの社会的活動等、快適で暮らしやすい生活を求める人間活動のすべてが文化であるというふうに考えているわけでございます。こうした観点から生活文化の創造こそが地域の活性化であり、個性あるふるさとづくりにつながるものだと確信をいたしているところでございます。

第5点、つくり育てる漁業の基本姿勢についてでございますが、まずその小さな第1点につきましては、漁業の振興を図るため、従来からのとる漁業からつくり育てる漁業、いわゆる栽培漁業への一環としてマダイ、ヒラメ、クルマエビ、アワビの種苗放流とともに、各種漁礁及び築磯による漁場づくりを計画的に実施しているところでございます。その効果につきましては県水産試験場、東京水産大学及び各漁業協同組合自身による標識放流、潜水調査等の追跡調査によりますと、その効果は徐々に向上しているというふうに伺っております。したがって、今後も栽培漁業の計画的な推進を図ることにより、漁家所得の安定及び向上につながるものと考えております。

次に、小さな第2点でございますが、昭和59年度から館山船形漁業協同組合におきましてヒラメの養殖を実施しているところでございます。その実績は年々伸びており、来年度はさらに増設を計画しているところでございます。他の魚種の養殖につきましても、波佐間漁業協同組合の定置でとれる中高級魚の稚魚を養殖し、付加価値を高めるための小割養殖施設設置事業を現在実施中でございます。今後も関係機関の指導を受け、養殖事業を推進してまいりたいと考えております。

次に、福祉施策についてでございますが、これも大変はしょった御質問でございますが、どういうふうに御答弁申し上げていいのかちょっと困りますが、この通告質問につきましてもいろいろヒアリングをいたしましたときに、いろいろ御意見があったようでございますので、それについて申し上げたいと存じます。

まず1点、民生保護の基準についてというお話でございますが、御案内のように生活保護は生活に困窮するすべての人に対して、その困窮の程度に応じ必要な保護を行い、最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長する制度でございますが、補足性の原理に基づきまして、利用し得る資産能力、その他あらゆるものをその最低限度の生活のために活用することを要件とし、また民法に定める扶養義務者の扶養及び他の法律に定める扶助は、すべてこの法律による保護に優先して行われるものと定められておりまして、最低生活費は毎年厚生大臣の定める保護基準によって算定されることになっております。

次に、福祉資金についての御質問でございますが、現在館山市社会福祉協議会で行っております民生金庫制度があるわけでございますが、これは館山市内の居住者で生活困難者——すなわち生活保護適用者及びこれらに準ずるものがございますが、その方々のうち災害、疾病、出産、就業その他の急迫する事情により、一時緊急支出の必要が生じた場合に、その費用として貸し付けるものがございますが、弁済能力を有する保証人1人が必要となります。また、貸付額は5万円を最高限度に、償還は月賦償還または一括償還方式で、貸し付けを受けた月の翌月から10カ月以内として、貸し付けに対する利子は無利子でございます。

また、住民との窓口対応についてでございますが、別に市の窓口の対応が悪かったという意味じゃないという御質問でお話しがございまして、大変安心をいたしておりますけれども、ヒアリングのときには印鑑証明についての御質問があったようでございます。それについてお答えをいたします。

印鑑登録については、新規登録申請に際しては本人の確認を第一要件としているところでございます。登録を受けようとする印鑑を御本人が持参して、官公署が発行した写真を張ってある免許証、身分証明書等を提示するか、あるいは本市に印鑑登録を受けている方が本人に相違ないことを保証する書面を提出すれば、即日登録ができるわけでございます。本人確認ができないとき、または代理人に委任して申請する場合には、照会文書によって申請者の意思確認をしてからの登録となります。

印鑑登録につきましては、御承知のように財産の権利変動につながるため、事故防止策として十分慎重なる注意を持って処理いたしているわけでございます。現在そのような状態になっております。

以上、答弁終わります。

◎議長（飯田義男君） 流山源次郎君。

◎23番（流山源次郎君） 今、私通告で出しました質問に対しまして、市の方から懇切に非常に誠意を持ってのお答えをいただきましたが、私先ほど演壇で要望いたしました、この機会をとらえまして私ども議会と市とのコミュニケーションを図っていきたいという意味で、市に質問ということは先ほど言いましたとおり、重箱の隅をほじくって何かするということなくして、私ここでやはり非常に大きな政策をする認識の上においてはどうなっておるかということの質問といいますか、相談を受けまして、市の方で教えていただきたいと思います。

やはり私が心配したとおり、市の方の回答は漁業法の問題にしても相当私どもが現役でいた時分と変わっておりまして、現在地元の共同漁業権以外には入漁権等は、そういう許可が今のところないというようなことでございますので、これだと例えばマリン計画等を行うにも非常に行きやすいではないかということでございますが、ただ老婆心ながらちょっと心配なのは、いろんな問題出てくるために、参考になるんじゃないかと思いますが、これも時代がやはり私の現役時代の問題でございますので、何か古いということ、今は改正になっておることだったらその線を教えていただきたいと思います。

ちょうど昭和46年ごろでございますが、九州大分県の臼杵市の中の臼杵漁協というのがございますが、臼杵漁協で共同漁業権の喪失を、正規の組合員の過半数をもって招集をして、その3分の2以上で漁業協同組合法によりまして漁業権の喪失が可決されたという事実がございます。そのときに、それを持ちまして臼杵市では、県に対しまして公有水面の埋め立て免許証を発行したわけでございます。ところが、この臼杵漁協の中の290名ですか、組合員が我々は漁場がなくなってしまうということで裁判に提訴をしたわけで、

経過がございます。

その結果、ちょうど46年の7月20日の大分地方裁判所のこの漁業権問題についての裁判の結果が出たということで、当時新聞をにぎわしたわけですが、その中の内容を読んでみますと、漁業権行使規則を変更する場合は水産業協同組合法50条だけでは、当該区域に漁業を営む権利を持っていた者の意思に反して漁業権が奪われるという不当な結果が生じる。その危険を防止するために、漁業権規則を変更するためには、漁業法第8条を適用して、現に漁業を営む組合員の利益を保護する必要がある。

漁業権放棄は当然漁業法8条の適用を受けるべきであるという裁判結果につきまして、大分県知事が漁業権の埋め立ての許可まで出していながらそれが無効になってしまったという判例が出たわけですが、その後において現在では、協同組合法の50条だけでいいのか、それともまた当然漁業法の第8条でございますか、漁業法の第8条の適用も大したことはないんだという、やはりその法律とかそういうものは年々こう変わっていくものでございますが、現在どうなっているかどうかお聞かせ願いたいと思っています。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ちょっと今私が持っている資料の中には、たまたま8条関係がございまして詳しくは御回答できませんですが、いずれにいたしましても市といたしまして、県の方に照会いたしましたところ、現時点では入漁権を所有している者はないというような回答をいただいております。しかしながら、過去にそういうような事実があったということでございますならば、これからそういうものをひとつ十分勉強をさせていただきまして、将来に対処していきたいというように考えております。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 流山源次郎君。

◎23番（流山源次郎君） はい、わかりました。

これはこれからのマリン計画とか埋め立て問題が、これから館山市のリゾートに絡んで大きく進展をしてくるんじゃないかということで、老婆心ながらも今まで通告の中に入れていなかったことを出してしまって、市の執行

部としてもそういうあれがないということですが。

私、申しわけないんですが、この質問を出すということで図書館に参りまして、水産業協同組合法とか水産業の問題でちょっと調査をしました結果、今部長さんのおっしゃったとおり、現在は差し支えないという、非常に条文が変わっていないんですが、法律的な第50条、それから漁業法の第8条というのは条文自体は昔のままで変わっていないんですが、裁判官の解釈によって46年の7月の大分裁判では、業界は法律を管理するだけのものであって、業界が決めても実際働く人が守らなきゃいかんということ、8条を利用しなきゃいかぬということで、これがせったく免許証を得たんですが、それがだめになってしまったんですが、今の図書館で見た結果では、それから50年とか60年近くでは、もうこの水協法だけで許可した場合には地元の漁民が何を騒いでもそういうのは適用にならない、水産業漁業協同組合法によって過半数の出席、3分の2以上の賛成をもって決議されたものはもう覆すことできないんだ、それと、その水産法の第8条におきますところの組合員の行使権というのは、漁業協同組合という一つの会社の中の一社員であるから、こういう一社員の言は左右しないというふうなことが書いてありましたんで、問題ないと思います。申しわけありません、時間を食ってしまつて。

それから、私もさっき演壇で、文化という問題につきまして、自分としても、出した私自体が苦笑、笑ってしまったようなわけでございますが、私文化の問題をここで今わずかの20分や30分の時間でそれを出しても、当然これはどうする問題ではないんですが、ただ私ども議員の立場といたしまして、私どもに常日ごろ周りの人が言ってくる問題というのはあるわけでございます。

それは、例えば市では高級な音楽の鑑賞費と思いますが、そういう予算も計上してくれる。また、つい近くの例ではオーケストラが館山市で結成されて、そのオーケストラに対して何がしかの市の予算がそこについたということは新聞報道にされております。これに対しまして、館山市の一般の市民は、私なんかは民謡をやったり、またカラオケといったらもう館山の6割以上の方がこれにみんなもう入っているんだと。市というのは、そういう高尚なも

のだけが文化であって、我々カラオケやっているとか民謡やっている人なんかは文化でないのかということをしばられて、常日ごろ質問されてしまって答弁に困ってしまうことがございますが、この機会でございますのでそれを出したわけでございます。

それから、館山市の城山におけるところの博物館の分館、里見城でございますが、これを中心にして今非常に城山は開拓されまして、また市が彫刻の径とか、それからいろいろ設備に投資をしておるわけでございますが、これに対しまして対岸の崖観音がございますが、あそこに上った場合には、城山の博物館の分館から眺める館山湾と、また崖観音の舞台から眺めるその展望というのは、どちらもひけをとらないほどのものでございます。

片一方は、市が何億という予算を投入して毎年毎年一步步、一步步つくっておるわけでございますが、対岸のやはりこの観光の1点でございます崖観音が、市長さんも見ておわかりと思いますが、屋根がさびついてしまっておるわけでございます。当然、じゃ地元でその屋根をきれいにしたらいいじゃないかという声も出ましようが、実は地元の方としては下の舞台を、昔は材木でできておりましたあの舞台を危険ということで、あそこを鉄筋コンクリートでやったのは、もうあれは御承知のとおり政教分離の関係で、ほとんど市の予算なくして、地元で寄附を募って何千万という金であの舞台をつくったんで、屋根まで手が回らなかったわけでございまして、その屋根の補修が二、三年前だったら30万でできたわけでございますが、その30万のがけ観音の屋根ぐらい何とか市でならないかと。博物館を中心にした城山は文化であって、同じ崖観音は文化でないのかという声も聞かれますが、単純なことで質問に立ったわけですが、これに対しまして市の方でどのようにお考えになるか、御説明願います。

◎議長（飯田義男君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

最初、民謡とかあるいはカラオケとか、文化じゃないのかというふうなお話なんでございますけれども、これはもちろん立派な文化であろうかと思っておりますが、人間の精神活動、精神的な潤いのある人生を送るためにはああ

いうものは必要だという考え方に立てば、私は必要なことであろうかと思っております。文化的な活動であると、このように考えております。

市民オーケストラに対して補助金とか出てるけれども、そのほかには出ていないじゃないかというようなお話でございましたけれども、文化団体連絡協議会という団体を通じまして、民謡のクラブとか等につきましても補助金が幾らかは行っているはずだと、こんなふうを考えておりますが、市民オーケストラは創立したばかりでございまして、自分たちの個人の負担金が非常にふえるということで、楽器の支出として若干の補助金をつけたんでございまして、決して特殊な扱いというわけでないと思っております。

それから、崖の観音と館山城との、分館の文化とどこが違うかというような考え方でございますけれども、分館の方はこれ博物館の一部でございまして、これは市営のものでございますから、これを積極的に私たちは整備しまして、そしてせっかくつくりました分館でございまして、現在は下の本館の方が里見の正史の方を中心としたいろいろなものを陳列する、分館の方は、館山城の方は里見八犬伝を中心とした資料を整備してそこに陳列をして、市民の方々あるいは一般の方々の供覧に付すると、こういうような目的でございまして、これはもう市の建物でございますから、積極的に応援してやっておるわけでございます。

それを取り巻く種々な環境につきまして、これは都市計画の方の仕事でございまして私たちの仕事じゃございませんけれども、やはり全体としまして、そのような市民の憩いの場所として整備されているんじゃないかなと考えておりますが、崖の観音の方ももちろんこれはすばらしい景観を誇っておりますけれども、市営のものではございませんので、そのようにお考えいただければありがたいと、このように思います。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 流山源次郎君。

◎23番（流山源次郎君） よくわかりました。

甘ったれているようでございますが、私この文化を持ち出したのは、皆さん誤解しておって、館山の市長さんは東大出の立派な方だから、そういうオ

ーケストラとか何とか、高尚な音楽自体が文化であって、我々民謡は相手にされないという、何か市長に対するやきもちといいますか、市長は我々を見てくれないというような気持ちがあるんで、私この質問出したのは市長さんの答弁として、市長さんはそういうオーケストラ、高尚な音楽も民謡もまたカラオケも市民みんな同一だということを、市長さんにここで答弁願えれば、広報等によりまして町の人に市長さんは差別していないんだということを引き出すために質問出したわけでございますので、ひとつ無理とは思いますが、市長さんの答弁をお願いしたいと思います。

それから、崖観音の件は、私議員になりましてからちょうどことしで17年になりますが、17年間の長い間、地元からせめて予算がないんだから屋根ぐらい、20万、30万のお金、市から引き出してくれということで、17年間にわたって市の観光のそれぞれの各執行者に対してお願いしておったんですが、一番難しいことはあれは政教分離でございまして、市がそこに予算を出すことはならぬというその一つの壁があったために、ずっとここまできてしまってどうしようもならなかったんでございますが、たまたま四、五年前でございまして、市の方で委嘱されまして、観光推進員になってくれということで、私、観光推進員になったところが、市の方で予算を出して、コンサルタントに館山の観光についての調査をお願いした。

コンサルタントの方が市でその調査結果を発表するというので、たまたま推進員でございましたので、その会場に呼ばれまして説明を聞いたわけですが、そのときにそのコンサルタントの方が、とにかく他地区から館山へ入ってきてまず目につくのはあの崖の観音であると。ところが、この崖の観音はあそこに来て、それを観光で見学しようとしても駐車場がない。みんな大きな観光バスが海岸線の市道の上へとみんなわざわざ並びまして、それで海岸線を国道まで上っていきまして、さらに車の激しい国道をまたいで、それでまた100段ぐらいある階段を上がって、その階段を上り切ったところでお茶の接待する施設も一つもないという、こういった地元で昔からある大きな財産を活用しなさいというような意味の、コンサルタントの第一番のこれが上がったわけです。

そこで私は観光、観光といいますが、私らも非常にその問題は同じ考えでございしますが、政教分離の関係であの観音様の屋根が非常に見苦しい、さびついておりますんで、それを市にお願いしても市の方としては政教分離の関係上どうしても困るということでここまで来てしまったんですが、何かいい回答はございませんかという質問されたときに、コンサルタントの方はそんなの簡単だよと。一応市が観光協会に対して、あの修理費を観光協会に渡して、観光協会の方から地元に渡してそれ塗れば、政教分離になる、観光協会やったらいいじゃないかという、その一発のことで、ああそうですか、じゃ助かりましたと。15年間その政教分離でここまで悩んでおったんですがということと言ったんですが、そのときにいろいろ市の財政の事情もございまして、市長さんとしては崖観音だけが神社でないと。いわゆるお寺じゃないんだと。館山市じゅうには神社仏閣やったら何百とある、それ一々20万、30万してそれをやったら館山市の財政はもたないというふうなことらしいんですが、何かとうとういまだに実現されないんですが、一応観光の目玉として目玉どおりに見えるというふうなことで、館山市でお金出てきたら道路建設とか、いろんな問題に年次に分けてやればいいんじゃないかと思って、ひとつ17年目のお願いでございしますので、今もう3年たっているから30万じゃないと思います、少し値が上がっていると思いますが、何とか市長さんの決断でひとつお願いしたいと思いますが、どういうふうにお考えですか。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） 先ほども御答弁申し上げましたように、文化というのは狭い意味でのいわゆる芸術文化じゃなくて、広い意味での生活文化ということで私は考えているわけでございしますので、そういう意味でカラオケも民謡も、やはりこれは人間の文化活動の一つであるというふうに考えているわけでございます。

それから、崖観音の屋根の修理の件でございしますが、これは大変、あの崖観音そのもの、建物そのものが文化財に指定されているとか、何とかそういうことでもあれば、これはもう文化財の保護という観点から公金を支出、市費を支出することにはやぶさかではありませんけれども、どうもそうではあ

りませんと、個人、私法人の、宗教法人の持ち物でございますので、これに直接市費を出すということはなかなか難しい問題だと思うんですが、やはりこれは地元の方々が浄財を集めておやりになることが、一番正しいやり方じゃないかというふうに考えております。

◎議長（飯田義男君） 流山源次郎君。

◎23番（流山源次郎君） じゃ、この文化の問題はこれで打ち切ります。

次、福祉施策についてでございますが、御承知のとおり市の福祉予算というものを見ましても、余り福祉予算というのはその割にほかと比べてふえてはいないんですが、これは民生保護とかそういうばかりじゃなくして、あらゆる面の福祉予算でございますが、むしろ民生保護の件は基準が厳しいというのか、これは早い話が今まで民生保護受けるに非常に不正で民生保護を受けているのが多いという、非常にそういったハンディがございまして、そういうために、防ぐためにある程度基準というものは厳しくなっておるんじゃないかと思うんですが、私どもこの人が本当に民生保護を受ける必要があるのか、またはこの人は少し不正じゃないかと思う、必要ないということは地域の住人が一番よく知っているわけです、その内情を。

その住民の方たちがあの人はどうしても困っているんだから、何とか助けてやってもらいたいということをお願いに来て市に参りますと、その基準にひっかかってしまって、もうすれすれにひっかかってどうしてもないということで、みんなほとんど却下されておるという現状でございますが、この点につきまして非常に私どもとしても、何だあの議員さん、こんなにみんなが困っていてやっているのに何もこの人に適用されないのかという、非常に非難を毎日受けているわけでございますので、何とかということで出したんですが、やはり基準があるということは、やっぱり法治国でございますので、それを破るわけにいかぬと思いますが、何かやはりそういった市民の困っている人を今助ければ、この人はあと伸びるんだという、そういう何か救う道があったらお願いしたいと思っております。

それから、福祉資金については先ほど市長さんも説明がございましたとおり、福祉協議会の方でやはり老人対策とか結婚相談とか、市のあらゆるもの

を民間同士自分たちの力によって、助け合いの精神によってこういう福祉事業をやっておるといふ福祉協議会ございますが、市の方としても補助金を出しておるわけでございます。その福祉協議会が、昨年度は各町内会に対しまして、館山市民は全部福祉協議会員だということで、今まで 250円の会費を 500円に値上げをしてきたわけでございます。

それに対しまして、私ども区長をしておる関係上、区民に対して市の趣旨として老人対策とかそれぞれいろんな福祉がある、また、生活に困った人がきょうあす入院するとか、何か非常に今どうしても生活費がないという困った場合には、それに対して5万円以下のものを貸し付けるという制度もあるんだから、ひとつ福祉協議会のこの線で了解して値上げをしてくれということで、区民ないし班長を集めて説明会を開いたわけです。

たまたまりクルートの問題ではございませんが、私の区の中の班長の1人が、おやじさんが千葉県の検事さんをやっておりまして、今木更津におると思いますが、その検事さんの奥さんが班長で参りまして、区長は横暴だとお父さんが言っていましたと。福祉協議会のあれは自分で自発的に出すのが趣旨であって、これは強制的に、何も法的には値上げ、倍の値上げになっても出す必要はないんだという、検事さんがそれを奥さんに言ったということで、ちょうど班長が奥さんになって、その会場でいろいろ問題になりましたが、一応納得してもらって、その 500円の、倍の値上げを了解して福祉協議会に納めたわけでございます。

ところがつい先日も1人困った方が来て、その方は館山へ来て、よそからきた方らしいんで、館山に余り身寄りはないんで、どうしてもおばあさんも入院しているし、生活に困るということで今3万のお金があったらと、ひとつお願いしますと福祉協議会へ行ったら、じゃ保証人の判をもらってこいということで、その人は身寄りがないので、民生委員の方のお宅に行きましたら、民生委員が民生委員やっていて一々保証人やったらもうたまないということで、民生委員の方は逃げてしまったわけで、それで私のうちへ来て、民生委員の方に逃げられてしまったんですが区長さん保証人になってくれということで、しょうがなく、民生委員も市からの依頼で私どもが区の

方で任命した関係上、じゃしようがないということで区長が保証人の印鑑証明として保証して金を借りてやったというようなことがございますが、これは1人や2人だったら何とか区長で少し損をしても払えるということですが、これがもう何人も出てきた場合には、とても区長としても保証し切れない。

値上げの原因がそういった困っている人を救うということだったんなら、民生委員の保証を持ってこいとか、区長の保証がないから貸さないとかいうことでなくて、何かもう少し緩やかな貸し出し、困っている人を助けるという線の線ができないとか、それができなければ、福祉協議会はどういう困っている人を助けますよと、こういう制度もありますよと言っても、それは絵にかいたもちに等しいものじゃないかと思いますが、こういった点はやっぱり十分考えて何とか救う道を考えていただきたいように要望いたします。

それから、最後になりましたが市民の窓口対策、これは私が言ったとおりどの課へ行っても、非常に応答はもうどこへ出しても恥ずかしくない、非常にすばらしいものでございますが、実は私議員になる前に漁協の理事をしておりまして、また船形のあぐり組合の委員長をやっておったときに、あぐり組合員の1人からうちを建てるんだから建設許可の書類をお願いしますと頼まれて、船を上がりまして、それで当時は土木課と建築課ですか、それが分かれておりまして、そこに書類をもらいに来て手続に来たわけでございます。

ところが、漁業関係者というか、また生意気盛りだったんで口の聞き方も悪かった。漁師は相当一般に今でも口の聞き方は余りよくないんですが、当時口の聞き方悪かったということで、その書類を1回で済むのを18日かけて、きょう行くとあしたこの字が違っている、あくる日行くとこの字が違って直せということで、18回も行ったり来たりさせられて、何で行ったらいっちゃんに親切に教えてくれないかということで18日も通って、それで船へ帰ったら賃金はカットされてしまうし、非常にことがございましたんで、今ではもうほとんどそれはなくなって、私が市会議員になったのも一般の困っている人はそうって、来るともう頭ごなしにやられて、そんな18日もやられ

たらたまらぬということで、市民のためにやろうということで出てきたわけですが、ただ今市長さんがお話になった印鑑の問題、印鑑証明の問題でございしますが、この問題も当人がもうどうしても印鑑証明のカードですか、それを受けていない人は相当いますが、どうしても困ってすぐつくらなきゃいかぬということで、じゃ家族、うちの人が自分のをもらいに行きますと、今御承知のとおり運転免許証がない、何がないということで、今のところは背番号制度もないのでございますので、この人たちが証明になるものがないという、当人が来ても、どうしても必要だという当人が来ても玄関払いになってしまふということで、こういったことで、やはり私が18日間通わせられたそれと同じに、やはりこれは何とか改正しなきゃいかぬ問題じゃないかと思ひまして、これは今すぐにどうしようということになれば、背番号制度でまた反対も起きるいろいろなこともございますが、この点を考慮していただきたいと思います。

それから、最後に……

◎議長（飯田義男君） 時間が参りましたので、これで終わらせていただきます。

◎23番（流山源次郎君） じゃ、やめます。

◎議長（飯田義男君） 以上で流山源次郎君の質問を終わります。

次、1番議員脇田安保君。御登壇願います。

（1番議員脇田安保君登壇）

◎1番（脇田安保君） 私は、5点にわたりまして市長に御質問を申し上げたいと思います。

今回の通告質問は、消費税に関する質問がいろいろな角度からありますが、私どもはこの消費税の導入については終始一貫して反対の立場をとってきたところであります。

その主な理由は、1、税制の抜本的な改革は消費税の導入にあるのではなく、総合課税制度の確立以外にはないこと。

2、国民が最も強く求められている不公平税制の是正に、何はさておいても最優先で取り組むべきこと。

3、消費税は昭和54年12月の国会決議及び60年2月の政府統一見解で実施しないと決められた大型間接税そのものであること。

4、税制の仕組みに致命的な欠陥を有していること。すなわち低所得者を初め、社会的弱者に対して過酷な課税となる絶対的な逆累進性であること。

5、3%の税率に対する歯どめの担保が保証されないこと。しかしのみならず、当初5%で実施された西欧諸国の間接税が、今日では20%前後まではね上がっているという事例が現にあること等々であります。

このように、極めて重大な問題を属する消費税が組み込まれる平成元年度予算は、今全国の地方自治体に深刻な影響をもたらしております。

本市においてもそれは例外ではなく、歳入において2,700万円の減収、歳出面においては工事請負費や委託料、資機材購入等で6,500万円であります。本来なら、この予算は市民福祉の向上に寄与するための事業費として使用できるものでありましたが、消費税の導入によって3%の負担増として消えてしまうことになるわけであります。

そして、さらに大きな問題として私どもが受けとめざるを得ないのは、当初予算には計上されておりませんが、市営住宅使用料及び手数料に対する3%の上乗せが市民生活に与える直接の影響についてであります。私の調査によりますと、特別会計の水道事業では1,910万余円が市民の直接負担になることが予測されるのであります。さらに、このほか保全公社のし尿のくみ取り料673万円と学校給食費の市負担金は74万余円、学童負担金が864万余円、また国は薬価基準及び診療報酬を0.7%引き上げる方針とのことであります。つまり、患者である市民にとっては医療費の値上げとなるわけであり、換言すれば1,800万円の消費税が実質的にかけられることになるのであります。その市民の負担は8,021万円に上るものと予測されます。

私も仕事上、よく消費税に関してどのように事業に影響してくるのかという点について質問されますが、市民の中にはこれから先どうなっていくのだろうかという不安が大きいのは事実の上です。例えば、ある工務店主は契約を既に終わっている施主に税の上乗せの分の負担はできないので、仕入れる材料の税の上乗せ分は自分が抱えなきゃならない。これでは赤字になるので

はないかという不安があると嘆いている人もおります。

消費税は、市民にとっていかに多大な影響をもたらすかについて申し上げましたが、しかしこの税制法案が一度法律として成立されてしまった以上、地方自治体としての本市が、またその首長としての市長が消費税に関する予算を編成せざるを得ない立場にあることは、望むと望まざるとにかかわらず、そしてまたいやも応もない行政制度のもとに置かれていることは十分に理解し得るものであります。

全国の市町村が、この消費税にかかわる予算の計上と条例の変革を避けて通れない状態の中で、本市のみが例外足り得ないことは客観的にも自明の理であり、このような地方自治体としてやむを得ない立場、選択の余地を有しない行政上の仕組みとはいえ、しかし市民生活には多大な影響を及ぼす消費税の実態を考えますと、我々の立場として今回の予算には反対せざるを得ないのであります。

そこで質問であります、市営住宅などの使用料、また手数料は消費税の上乗せを凍結していくのか。

2点目、便乗値上げ防止の監視体制については、やはり市民の身近な市として手を差し伸べてやる方法がいろいろあるように思いますが、この点市長さんはどのようにお考えですか。

次に、有害な化学汚染の監視はどのように行われているかということであります。

1978年、国連環境の推計によると、現在日常的に利用されている化学製品は約400万種、商業的に利用されている化学製品は約3万種、これで毎年開発される新化学製品は1,000種類であります。これらは食糧生産、健康管理、消費物質の進歩により、大きく貢献している反面、人間に被害を与える危険性も大であります。そこで懸念されることは、使用されている化学物質について人々が十分な知識を持っていないことであると思います。発がん性や人体への悪影響が解明されているのは、ほんのわずかの物質にすぎません。残りは全部無害などではなく、影響がわかっていないというのが実情であります。

環境庁は、62年度の化学物質環境調査の生物モニタリング結果を発表しましたが、それを見ると化学物質汚染の恐ろしさがよくわかります。例えば、17年前に使用禁止、7年前製造を含めて全面禁止になった農薬デイルリンや、シロアリ駆除剤として使われ、一昨年使用禁止になったクロルデンが、なお広範囲に生物の体内に残留しているという事実があります。このほか、船底塗料や網に利用されているトリブチルスズ加工物は検出範囲は減少したものの、最高限度は前年度を上回ったのであります。これは、一度汚染されると原状復帰は難しいのが、環境問題の特徴であると言われております。

そこで質問であります、当市でトリクロロエチレン、四塩化炭素等々の汚染の監視はどのように行っておるのでしょうか。市の対応策についてお伺いいたします。

次に3点目、市広報紙を郷土出身者に送付してふるさと志向をとということであります。

御承知のように、当市も平成元年にはいよいよ市制施行50周年を迎えました。この50年という歳月には、多くの郷土出身者が各都市に輩出されていると思います。その中には事業家として成功している人もあろうし、また文化人として名を広めている人もいます。私はこの50周年の一つの歴史的な区切りとして、これらの郷土出身者にもう一度館山市のよさというものをアピールしていったらよいと思うのであります。各地に点在しているこうした人たちに、まず市の新しい広報紙を送り、点と線で結ばれた関係はやがて立体的な活動と呼び起こす原動力になるのではないのでしょうか。館山のよさを再確認した人々の中から具体的な活動を期待できるのではないのでしょうか。

例えば、このような方法で親近感を増大させていけば、これは観光面からも文化面からもいろいろな展開が可能になってくると思われます。そして、市行政を円滑に進めるためにも、また御協力をお願いする場合にも必要なことであろうと思います。こうして市の広報を配布することについてどのようにお考えですか、お尋ねいたします。

第4点目、交通事故安全対策については今までたびたび質問や答弁がなさ

れてまいりましたが、私は少し新しい視点から御質問申し上げたいと思うのです。

さて、最近の交通情勢はますます厳しさを加え、去年は全国の交通事故による死亡者は3年ぶりに1万人を突破したということであります。館山市内での交通事故の被害者は、老人や子供など交通弱者に多いのであります。館山署のまとめによりますと、6年度中発生した幼稚園児から中学生までの交通事故は58件で、低年齢層の事故の中でも高い比率を占めているということであります。さて、来月からは新学期も始まり、これからの施策はいよいよきめ細かく学童の立場に立ってなされなければならないと思います。

そこで、質問の第1点であります。国道128号線の国分地先より箱橋までの間の自転車通学路は、幅が狭いために事故が発生しやすい状態であります。これは学校登校や下校時の同じ時間帯の中で学童が流れているのであります。この件に関しては、市として県の方に対策方を要望していただきたいと思うのですが、この点についていかがですか。

次に、2点目として道路に発光びょうを設置したらよいと思います。この発光びょうの効果については、特に見通しの悪い交差点で威力を発揮するものであります。この発光びょうは、電源としてびょうの中心に太陽電池を入れて、周囲の明るさに反応して赤や黄色に点滅するようになっております。これを市内の危険箇所を設置すれば、かなりの事故防止に役立つと思われます。この点についてお考えをお聞かせ願いたいと思います。

最後に、水道事業についてであります。

水問題については12月議会、また今議会においても細目にわたって質疑が行われましたが、御存じのように過去には九重地区での地下水の取水が進められておりましたが、地区民の同意が得られなかったという経緯もあり、近くは増間ダムからの給水計画もありました。そこで、昭和66年給水開始になるのではないかと喜んでおりました。しかし、県の南部利水計画の構想が示されてから、この問題はかなり方向転換をせざるを得なくなったようです。

先ごろ、県知事は千葉政経懇談会で、南部地区について上下水道整備に力を入れたい、現在、長柄ダムまで来ている利根川の水をさらに延長させ、夷

隅、安房地方の人たちにも利根川の水を飲用水として活用してもらいたい、その可能性をめぐっての調査を行うという談話を発表しております。この水問題は、12月議会当時から見ますと県の計画や意思が急速に具体化しているように思われます。そこで、私は県の示した方向に関して、市としてはどのように働きかけているのか、その働きかけをお尋ねするものであります。

つまり、市としては県の意向に合わせて連動させていくわけですので、市の側の進みぐあいとしてはどのような進展が見られるのかという点であります。この点について市長の御見解を承りたいと思います。

以上、5点にわたり質問を申し上げましたが、市長の御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 脇田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、消費税の問題でございますが、その小さな第1点、市営住宅などの使用料金及び手数料は、消費税の上乗せを凍結するかという御質問でございますが、消費税の問題につきましては昨日各議員さん方に御答弁申し上げましたとおりでございますが、一般会計の使用料、手数料の改正の時期、またその内容につきましては他市町村との均衡等、今後の検討を踏まえて対処してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点、便乗値上げ防止の監視体制についてでございますが、これにつきましては消費者保護の立場から、従来より商工観光課において実施しております消費生活苦情相談業務において対応してまいりたいと考えております。なお、苦情の内容によりましては国、県、商工会議所等関係機関と連絡を図りながら対処してまいりたいと存じます。

これについては行政のできる範囲というような御質問もございましたが、御承知のとおり市町村には権限がございません。しかしながら、県におきまして4月から消費税諸問題の窓口の開設を予定していると伺っておりますので、権限のあります国、県等と連絡を密にして対応してまいりたいと考えております。

次に大きな第2点、有害な化学汚染の監視はどのように行っているかという御質問でございますが、地下水汚染防止対策として千葉県地下水汚染防止対策指導要綱が平成元年1月10日付で制定されました。これに基づき、当市といたしましては今後トリクロロエチレン等3物質の有機塩素系溶剤の水質調査を実施し、その実態の把握に努め、地下水の水質保全を図ってまいります。

大きな第3点、市広報紙を郷土出身者に送付してふるさと志向に役立てたらどうかという御質問でございますが、現在のところ県内市町村との広報交換を初め、ごく一部の郷土出身者ではありますが、希望に応じて個人送付し、情報提供しているところでございます。御提案のとおり館山市のPRに有効な手段と考えますが、その対象範囲の限定や希望者の把握などに困難性がございますので、十分検討を加え今後の課題としてまいりたいと考えております。

次に、大きな第4点、交通事故防止対策についてでございますが、その小さな第1点、国道128号線の自転車通学路についてでございますが、御質問の通学路につきましては千葉県公安委員会におきまして自動車、自転車及び歩行者の交通量を考慮いたしまして、自転車の安全かつ円滑な交通を確保するために、昭和59年4月より自転車でも歩道を通行することができる場所として指定されたものでございます。したがって、歩行者のいる場合には自転車は徐行して通行することになっております。現在、一部で狭い箇所がございますが、県へ照会いたしましたところ、地元の御理解、御協力が得られれば拡幅することは可能であるということでございました。

小さな第2点、道路の交差点に発光びょうを設置してはどうかという御質問でございますが、発光びょうの設置につきましては、交通安全対策上必要があれば警察署等関係機関とも協議をいたしまして、今後も前向きに対処してまいりたいと考えております。

大きな第5点、水道事業についてでございますが、まず南部地域総合利水計画調査について市として県にどのような働きかけをしているかという御質問でございますが、昭和63年9月13日、知事あてに安房郡市市町村長名をも

って長期的に安定した水源確保の要望をいたしました。さらに、平成元年2月21日に夷隅、安房郡市の17市町村長連名によりまして、広域的水源確保の早期実現を要望してきたところでございます。

次に、南部地域総合利水計画調査に合わせて、市側の進みぐあいはどうかという御質問でございますが、昭和62年度から63年度にかけて実施した将来の水需要予測に基づき、現在県と協議をしているところでございますが、今後県の計画調査の進展とあわせまして、市水道事業計画策定を進めてまいる所存でございます。

以上、答弁を終わります。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 何点かにわたりまして質問をさせていただきます。

最初に消費税ですけれども、私で5人目でありますので大分問題は消化されたというふうに思っておりますけれども、私の直接的な質問趣旨でお伺いしたいと思います。先ほど市長さんの話ですと、当分、市営住宅等のこれからやるのかやらないか、はっきりちょっと私も確認とりたいんですけれども、当初予算にはのせないわけですが、使用料、手数料含めて今後一切 — もう一度お願いしたいんですけれども、やっていかないのかどうか、その点からお願いしておきます。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） 先ほど大変消費税について御理解のある御質問の内容だと思っておりますけれども、やはりこれは課税 — きのう御答弁申し上げましたように、やはり課税すべきものだというふうに考えているわけですが、その課税の仕方、時期についてはいろいろまだ検討すべき問題があるかと思しますので、今後検討をして処理をいたしたいと考えているわけでございます。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 建設省は — このようにちょっと公営住宅法の中に出ているんですけれども、住宅に困窮する低額所得者に低廉な家賃で供給するという公営住宅法があるわけですね。その趣旨からいきますと、市営住宅

等はやっぱり所得の低い人、生活困窮者等がやはり多く、また身体障害者等も含めて、福祉に関係ある、含めて入っている方が多いわけですね。

そのようなことを踏まえて1点お聞きするんですけども、例えば市営住宅の修繕費等にはその工事発注分に対しては消費税はかかってくると思う、払う側としてかかるわけですから。そうしますと、使用料そのものは市の予算の中から全体的にいきますと、入ってくる消費税よりも出ていく方が余計なわけです。その中の住宅使用料の修繕費ありますね、補修費等の中で、それはどのくらいの率になりますか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 今ちょっと数字は持ってきておりませんが、後ほどお答え申し上げます。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 細かい数字でまことに申しわけなかったですけども、難しい計算方法あると思うんですけども、といいますのは私この消費税そのものがいろいろ選択方式がありまして、私も小さな商売やっているんですけども、いろいろ勉強しまして、昨日も市長さんがおっしゃったできの悪い消費税だと。できが悪いよりも私は悪税だと思うんですよ、これ。もう確かにこの消費税そのものが、考えれば考えるほど、勉強すれば勉強するほどもうとても消費者にはまるっきりかぶってくるし、零細企業等は下からは消費税仕入れ分が入ってくる、上からはその分転嫁できないという大変な税なわけです。

それで、例えば市の請負単価 — 工事費、資機材購入費等、消費税、この前の全員協議会の説明では2%ということでありましたけれども、確かに入札制度のもとでこの消費税をかけていくわけですけども、大手の企業とか、あるいは大手の卸売業に対してはこの消費税はそのまま転嫁できるわけです。まして、市の入札制度の上においては、やはりそのまま入札決まった値段において3%ですよといったら、そのまま業者としては受け取れるわけです。だから、受け取れない、要するに転嫁できない業種も全国の零細企業の中で六十何%という業種があるわけですね。それほど今後この消費税そのものが

大変な税だということでありまして、この生活困窮者等にはこれは絶対乗せていくべきじゃないということを、私は強くそれを訴えていきたいと思うんです。細かい数字的に見ますと微々たるものかも知れませんが、ですけれどもやはり住宅あるいは生活困窮者が入っている市営住宅に対しては、そのような今後検討をする中において値上げしない方向に検討していただきたい、そのように思います。

それと、便乗値上げ等の行政指導の面ですけれども、これは通産省あたりからあると思うんですけれども、県の方で窓口を開設するということでありますから、市としても消費者に対して適切なやはりアドバイスですか、行政指導はなかなか難しい面があると思いますけれども、やはり問題を提起されたときにおいて適切にアドバイスしていただきたい、そのように要望しまして消費税に関して終わります。

じゃ先に進みます。次に、化学汚染の方ですけれども、今年度検査することであるから、そこで内容等を少しお聞きしていきたいと思えます。千葉県地下水汚染防止対策指導要綱等が発表されて、館山市もその対象にして行っていくようであります。この対象物質といいますか、対象する物はこれ何と何に当たるものでしょうか。それと、その検査方法、検査はどのように — 館山市で行っているんですけれども、この検査をどのような方法で行っていくのか。また、あるいはこの地域、特定の地域を選んで行うのか、あるいは市全体に行うのか、それとじゃどのくらいの期間をかけて行っていくのか。それともう一点、また予算的にはどのくらいの規模なのか、その何点か、対象物と検査方法とか、という点をひとつお聞かせ願いたいと思えます。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） まず、最初の調査対象でございますが、県の水質汚濁防止指導要綱によりましてトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1・1・1トリクロロエタンの3物質でございます。

それから調査方法でございますが、現在県で使用の可能性のある事業所、業種といいますか、これの全事業所について実態調査を行っております。こ

れが3月の末に終わるということを県で言うておりますが、それによりまして市内の対象事業所がどこであるということが通知されてまいりますので、その周辺を重点的に行ってまいりたい、そのように考えております。

それで、期間でございますが、その対象事業所が通知されまして、使用しているという対象事業者が出ました場合に、県等と協議しましてどの地点の井戸を対象とするかというようなことを決めます。それから、その水質の検査、これらを含めまして大体3カ月から4カ月ぐらいの期間がかかるのではないか。その対象事業所が決まってから3カ月から4カ月間の期間がかかるのではないかと考えております。

また、予算でございますが、一応25地点ということで当初予算には計上をしまして、1地点大体2万円程度の見積もりでございまして50万、それに消費税分を見て予算は計上してございます。

なお、これはとりあえず25点というのは、大体住宅の密集している地域、これを1平方キロ当たり1地点というようなことでもって選びまして、また水道水源等でその井戸の水道基準による検査を行っている地域等は除きまして、25点ということを予算化したわけでございますが、今後県から出てくる事業所の数によっては、また補正で調査費は願います、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） そうしますと、3月に県の方でわかるということありますから、館山市の要するにそういうこの対象物としてトリクロロエチレンとかテトラクロロエチレン、1・1・1トリクロロエタンというこの3物質に対して、こういうものを使っている事業所あるいはその職種、3月にならないとわかんないわけですね、この使用している業者というんですか、事業所は。わかってから、要するにその周辺を地下水の調査をするということとでありますね、ちょっともう一回確認。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 現在、例えばクリーニング業はドライクリーニ

ングに使うということが言われておりますけれども、63年度館山保健所が市内のクリーニング業者全部六十何店ですか、検査しまして使っているのは3社だけであるというふうなことでございますけれども、そのほか大体使用しているであろうという県で考えております業種が18種類ございますので、これらのうち館山で果たしてどの事業所が使っているかということはまだつかめておりませんので、それが出ましてから第1段階としてはその使っている事業所の周辺を子細に検査をしていきたい、このように考えております。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 検査場所とか等はわかりましたんですけれども、そうしますとその事業をやっている要所要所を検査するわけということですから、じゃ例えば検査しまして、これはない方がいいんですけれども、検査結果、汚染が確認されたと仮定します。その場合の対応措置等はどのように市の方で考えておるんですか、この点をお願いしたいんです。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 汚染確認時といいますか、確認された時点では、市町村長は速やかに汚染範囲を特定しまして関係住民に周知するということがまずあるわけでございます。それと同時に、やはりこれ一般市民にも公表をする必要もあろうかと思えます。そして、さらにその汚染実態の確認のための水質調査をさらに重ねて行う。それから、汚染機構の解明調査を行う。それから、地下水から対象物質を除去するための措置をどうしたらいいかということ。さらに、汚染範囲の監視のための追跡調査を行っていく。このようなことが県の要綱で市町村長として行うべきだと。また、これに対して県として必要な技術指導等は行うというふうなことでなっております。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 大体大まかわかってきたんですけれども、この施策はやっぱり住民の生命にかかわる大事な問題であると思えます。ですから、県と協力を密にして十分に検査を行っていただきたいことを要望いたします。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 済みません。先ほど資料がございまして御答

弁申し上げられなかったんですが、住宅使用料につきましては 4,437万あるわけございまして、そのうちに修繕料として予定されておりますものが 1,141万でございます。それから、消費税として予定されるものが約34万というように考えております。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1 番（脇田安保君） 次に移ります。

市の広報、先ほど市長さんからお話あったんですけれども、これは今まで希望者には送付されているようであります。ですけれども、50周年という大きな節でありますので、やはり館山も50年たちまして、日本全国散らばっている人たちで館山出身で、大きく成果をおさめられた人たちも多くいるはずだと私は確信するんですけれども、その中でやっぱり文化の面あるいは事業の面、いろんな面で成功されている方が多くいるはずであります。ですから、一つの市の50周年という大きな事業のもとに、館山市をもう一度やっぱり見直していただくような、我がふるさとを見直すということでもありますので、この点はやはりでき得る限り市から輩出された方々の居住地を把握されまして、館山市は今このように50周年を迎えて、今後50年に向かってこのように進むんだというものをしていくことによって、やはりあらゆる面でプラスになってくるんじゃないかということを私は思いますので、ぜひその点を実行されますように要望いたします。

じゃ、4点目の交通事故防止対策についてであります。これは国道 128号線にかかわる問題ですけれども、ですから市としてどうすることも、直接的なことはできないんですけれども、道路法の方にこのような条文がございます。10条の中に自転車道の幅員は2メートル以上とするものとする。ただし、地形の状況、その他の特別の理由により、やむを得ない場合においては 1.5メートルまで縮小することができる、これが10条2でありますけれども。3項の方に地形の状況やその他の特別の理由により、やむを得ない場合においてはこの限りでない。これが法律であると思いますけれども、現実的に、実際に場所によっては1メートルしかない通学路、自転車道路を通っている、

小学生が前を歩いている、その後が自転車の場合に、先ほどの市長さんのお話ですと、徐行してってとお話にあったんですけれども、歩いている人以上に自転車がゆっくり走れるかなという疑問を抱いたんですけれども、その場合にどうしてもやはりこれは車道側におりざるを得ないという結論になるかと思うんです。

ですから、そうすることによってやはり、今あそこの国道が館山市でも唯一の交通が激しい国道だと私は思うんであります。そこのところに、朝晩通学する児童がそのような状態であった場合に、交通事故の危険にさらされることはこれはもう明白であります。といいますのは、2年前にちょうど中学3年生が下校時に後ろからちょっと乗用車か——車の種類は忘れたんですけれども、車に接触され、入院しまして生命には異状はなかったんですけれども、自分の希望校に受験できなかったという、2年前にありまして、そのさらに4年前は交通死亡事故も起こりましたということを市として御存じだと思います。それに対して、やはり地元の了解のみなく、やはり市として今まで県に対してそういうふうな歩道が、危険な歩道があるということで県に要望、これ出したことがありますか。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 今までに歩道の拡幅に関しまして要望した経緯はないというように聞いております。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） ないということでありましてけれども、現実的に狭い道路があるわけです。それで、このような事故の例が、あるいは館山市全通学路において、危険なところが、特に危険なところといいますか、この通学において自動車道との関連等を含めて危険箇所は館山市ではどの程度あるか、当局は把握できておりましたら数値をお願いしたいんですけれども。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 通学路の危険箇所といいますか、改善箇所といいますか、昨年の暮れに市内の小中学校全校の交通安全担当の先生方にお集まりいただきまして、それぞれの学校の通学路に対しての改善といいますか、

手当てをしてという要望事項を出してもらったわけですが、それら
が取りまとめられています、各校ともそれぞれ通学路の標識ですとかカー
ブミラーですとかガードレール、あるいはガードパイプ、路面標示、そのほ
かいろいろ数多く出てきておりますので、これらについて今後順次対処して
まいりたい、このように考えております。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 市の方で検討されたときに出了たそうですけども、
確かにその中に特に危険なところと今すぐ実施しなきゃいけないところと分
類されるかと思ひます。その中で含めて、各学校から出された要望に対して
市としてもでき得る限り早期にやはり実現していただきたい。また、重ねて
128号の用地買収等も含まれると思ひますけれども、これは市民の皆さんの
生命にかかわる問題であります。でありますので、やはり前向きな検討、ま
た県の方に強くその働きかけをお願いしたい、そのように要望しておきます。

もう一点、その発光びょうについてでありますけれども、これは先ほど説
明申し上げましたんですけれども、交差点、信号機をつけなきゃならない交
差点等もございますけれども、信号機をつけるまでにいかない、またそうい
うものを必要はない、ただ事故が多いというところに対してはこれは、や
はり運転者の交差点だという意識を高めるための、いわゆる効力を発揮する
んじゃないかと私は思ふわけあります。

といいますのは、鴨川市を引き合いにして申しわけないんですけれども、
鴨川市は62年度に10カ所を設置したそうであります。それから、63年度に10
カ所設置する予定があるそうなんです。それと隣村の三芳村では3基を行
うような話も聞かれます。でありますので、やはり交通事故防止対策という
観点からおいて早期な、必要に応じた場所において設置していただきたい、
それをお願いするわけあります。

最後に水道問題ですけども、これは大分きのうの議会でも論議されまし
て、私は違つた観点から二、三お聞きしたいと思ひます。

水道問題については県の方等の意向としては、長柄ダムから引いて利根川
の水を夷隅、安房の人たちに利用していただきたいという知事のお話が1月

の新聞あるいは昨日の知事の話、それときのうのテレビニュースですか、等でも南部地区はしばしば渇水ということで、県の対応等を、NHKで調査を実行していくんだという報道もなされました。それにおいて何点かお聞きしたいんですけれども、長柄ダムの——私もダムを見たことはありませんのでよくわからないんですけれども、その規模ですね、ダムの規模。また、現在どのぐらい水量があるのか、最大貯水量としてはどのぐらいの規模のダムなのか、その点を当局が調査してありましたらばお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（飯田義男君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） お答えいたします。

長柄ダムの規模並びに水量ということでございますが、この長柄ダムにつきましては佐原市にございます両総用水第1揚水機場を利用いたしまして、利根川の水を取水して房総導水路を通りまして南下をして、長生郡長柄町にあるわけでございますが、この総貯水量といたしまして960トンということで聞いております。ちなみにちょっと御説明申し上げますと、作名ダムが36万トンでございますので、その約15倍という大きさでございます。これは平地につくられたダムということで聞いてございます、私も実際にはまだ見てございませんが。

それから、現在の貯水量ということでございますが、これは長柄ダムの方がどのぐらいの貯水量があるかということは調べてございません。この水は九十九里の水道水、それと農業用水、それから千葉、君津地域の工業用水に使用されておるということで聞いております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 960トンというと、今ちょっと予測がつかないんですけれども、相当の量があるように、その量そのものを利根川から引いておるんですけれども、それは常時それだけの導水で送られてきているからその量は確保されておるというふうに解釈するんであります。でありますけれども、実際いろいろ報道されている中で、現在ですとやはり長柄の利根川用水を使用、館山、安房に引いてくるような構想が強いように感じられます。そ

こで、これはまた大変な事業になるかと思ひますんですけども、現在そのダムがございまして、館山までどのぐらいの距離があるのか。

それと、これは酷な質問だと思いますけれども、どのような方法でこの安房地域まで導水を引いてくるのか。その点は、勾配等はよく私は理解できないんですけども、その点がわかりましたらひとつお聞かせ願ひたいと思ひます。

◎議長（飯田義男君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 先ほどの御答弁で 960トンということございまして、これは 960万トンの間違いでございまして、大変失礼いたしました。

それから、安房まで何キロぐらいあるかというような御質問でございますけれども、約90キロ乃至 100キロ — 長柄まで67キロで引いてございまして、これは直線にいたしましたら短いんですが、ある程度曲がっておりますので、90乃至 100キロだということになります。

その導水をどのような形で供給するかということでございますが、まだこれはいろいろ技術面等も検討をしなければならないと思ひますけれども、いわゆる企業団方式で安房、夷隅にどこかに用水供給事業体をつくって、そこで浄水場をつくり、なおかつ末端給水をしております14事業体はその水道水をもう飲めるような水で供給を受けて、14事業体が末端給水を行う、そんなような形になるんじゃないかというようなことございまして、まだ細部のその南部圏域広域的水道整備計画がことしいっぱいで作成されるということでございます。そこらを見ながら答えが出てくるんじゃないかと思ひます。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 脇田安保君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午前11時56分

◎議長（飯田義男君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、3月13日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の

審議といたします。

なお、この際、申し上げます。平成元年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは、3月13日正午でありますので申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問